

電 信

前 7 頁 不 開 示

総番号

主 管

平成16年 7月14日

英 国 発

中東2

平成16年 7月15日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

折 田 正 樹 大 使

イラク情勢（「バトラー報告」）

第604号

14日午後、イラク戦争を巡り英政府が大量破壊兵器（WMD）に関するインテリジェンスをいかに収集し使用したかを調査する為の調査委員会（委員長：バトラー卿（元内閣府長官）本年2月に設置）より報告書が発表されたところ、概要は1. の通り。原文はwww.butlerreview.gov.uk/report/report.pdfで参照可能。イラクに関するインテリジェンスの質に疑問を呈し、また政府は公表した文書（ドシエ）に「イラクは45分以内に大量破壊兵器を配備可能」と記述すべきではなかったと批判する一方で、英国のイラクにおける情報収集活動は限定的なものであり、イラクの生物化学兵器については独自の情報源によらない情報や他国の情報にも依存していたこと、故意の事実の歪曲はなかったこと、収集された情報が十分再評価されない等のシステム全体の問題であり、スカーレットJIC議長を含め、特定の個人の責任ではないことを認める内容となっている。

また、報告書の公表後に行われたブレア首相のステートメント及びハワード保守党党首のコメントの概要は2. の通り。

1. 報告書概要

(1) インテリジェンスの信頼性

(イ) 情報源において人的情報源が占めた割合の高さ、及び閣僚や政府高官に提供されたインテリジェンス情報の質に疑問が投げかけられた。MI6による情報源のチェックの脆弱さが問題の一因である。

(ロ) イラクは情報機関にとって難しい標的であり、サダム・フセインはインテリジェンスに対する対抗手段を多く準備していた。そのため、英国のイラクにおける情報収集活動

注意

一 二

電報の取扱いに関する照会情報は慎重に扱います。関係

内線四二一三・四二一四

に連絡願います。

電信

は限定的なものであり、イラクの生物化学兵器については、独自の情報源によらない情報や他国の情報にも依存していた。

(ハ) M I 6 への情報提供者の一人は、いくつかの事項については信頼できる報告を行ったが、その他については周辺からの見聞を伝えた。M I 6 の第 3 番目の主要情報提供者からの報告は、信頼性がないとして使用中止となった。

(ニ) イラクの生物化学兵器に関する他国情報機関からの情報には深刻な欠点があり、イラクがこれを生産しているという英国の評価の根拠は現時点で存在していない。

(2) 大量破壊兵器の「45分間」以内使用について

イラクが45分以内に大量破壊兵器の配備が可能であるという主張は、その内容についての説明はなく、英政府文書(ドシエ)に記述されるべきではなかった。現在M I 6 は、「45分」に関するインテリジェンスの報告は議論の対象となっていると述べている。

(3) ニジェールからのウラニウムについて

イラクがニジェールからウラニウムを要求したという英インテリジェンスの主張は、確かなものである。イラクが実際に購入したかについての最終的証拠は存在しない。

(4) 兵器に関する英政府文書(ドシエ)

(イ) インテリジェンス上層部によって、彼らの判断の限界に関する警告が示されなかったことが欠点である。ドシエで行う判断は、入手できたインテリジェンスによる判断の限界に達していた。

(ロ) ドシエを支持する厳密で豊富なインテリジェンスが存在していたという印象は、ブレア首相がドシエ発表の日に、議員に対して、インテリジェンスによって描かれた青写真は「広範囲及び詳細にわたり、信頼性のあるものである」と述べたことにより強化された。

(5) 合同情報会議(Joint Intelligence Committee)

(イ) 意図的な歪曲や咎められるべき過失があったという証拠はない。

(ロ) 「45分」の主張を除いては、本来のインテリジェンスはJ I C 評価において全般

注意

一二

電報の取り扱いは慎重に願います。課検・閲覧

内線四二一三・四二一四に連絡願います。

的に正しく報告された。

(ハ) ドシエの作成にあたり、重要なインテリジェンスの報告は、懸念を喚起する立場にある国防省情報スタッフの専門家に事前に閲覧されるべきであった。

(ニ) ジョン・スカーレット・JIC議長は、MI6長官としての新たな役職を辞任すべきではない(特定の個人の責任ではない)。

2. ブレア首相ステートメント及びハワード保守党党首コメント概要

(1) ブレア首相は、政府が報告書の結論を全面的に受け入れることを表明するとともに、イラクにおいて今後大量破壊兵器が見つかる可能性が低いことを認めつつも、誰も嘘をついたわけでもなく、誰もインテリジェンスをでっち上げたわけでもないとして政府の行動の誠実さを主張した。その上で、ブレア首相は、(大量破壊兵器がなくとも)イラク戦争の判断が正しかったと述べ、サダム・フセインを排除したことにより、世界はより良い、より安全なものになったと主張した。

(2) これに対し、ハワード保守党党首は、イラクにおけるインテリジェンスは限界があるとの事実を事前に知っていながら、開戦前に「イラクに大量破壊兵器が存在することは疑いがない」と述べたブレア首相は国民に対して正確な説明を行う責任を果たせなかったものであり、首相の信頼性(credibility)は疑わしいと述べてブレア首相を批判した。

転電《添付無》イラク関係国(了)

注意

一ニ

電報の取り扱いは慎重に願います

内線四二一三・四二一四に連絡願います。

電信

大臣	查察大使	○ 総政局長	○ 欧州局長	○ 経協局長
大 秘	察 官	○ 審議官	○ 審議官	○ 審議官
副大臣	参事官	○ 総 総	○ 審議官	○ 審議官
副大臣	察	○ 総 企	○ 欧西 1	○ 審議官
政務官		○ 総 テ 協	○ 欧 国	○ 経協政
政務官		○ 総 安	○ 欧西 2	○ 経協緊
政務官		○ 総 国	○ 欧 口	○ 経協民
○ 事務次官	○ 外報官	○ 総 平	○ 欧新独	○ 経協調
外審・政	○ 参事官		○ 欧東支	○ 経協開
外審・経	報 外		○ 欧 支	○ 経協国
儀典長	報 内		○ 欧口交流	○ 経協技
官房長	○ 報 報	○ 国社部長		○ 経協有償
総括審	○ 報 際	○ 寿本部長		○ 経協無償
国会参		参事官		○ 経協理
		○ 国 行	○ 中ア局長	
		○ 国 専	○ 審議官	
		○ 国 人	○ 審議官	
政府代表	文 部 長	○ 国 人 支	○ 参事官	○ 条約局長
北ア大使	参事官	○ 国 環	○ 参事官	○ 審議官
経大使	文 政	○ 国 候	○ 中東 1	○ 条 条
環大使	文 人		○ 中東 2	○ 条 協
核大使	文 協		ア 大	○ 条 規
○ 大使		○ 北米局長	ア 審	
		○ 参事官	開 大	
		○ 北米 1	紛 大	
		○ 北米 2	ア 1	外 研 長
		○ 北米 保地	ア 2	外 研
		○ 北米 地		
	○ 領移部長			
	審議官			
	○ 領 政			
	○ 領 保			
	○ 領 对			
	○ 領 旅			
	領 外			
		○ 中南局長	○ 経済局長	緊 对 本
		参事官	審議官	
		○ 中南 1	○ 参事官	
		○ 中南 2	○ 政府代表	○ 国情局長
		○ 中南 力	○ 経 總	○ 審議官
	○ 軍 科 審		○ 経 連 協	○ 情 国
	○ 参事官		○ 経 愛 博	○ 情 析 1
	○ 軍 軍		○ 経 経 1	○ 情 析 2
	○ 軍 不 拡		○ 経 漁	○ 情 調
	○ 軍 化 兵		○ 経 経 2	情 七
	○ 軍 通	○ 亜洋局長	○ 経 欧 ア	才 ペ 室
	○ 軍 科 原	審議官	○ 経 工 海	
	○ 軍 科 協	審議官	○ 経 途	
		○ 亜地政	○ 経 了 太	○ 防衛情報
		○ 亜北中	○ 経 国 1	
		○ 亜東 1	○ 経 貿 紛	
		○ 亜東 2	○ 経 国 2	
		○ 亜西		
		○ 亜洋		